第１６章　山形県Ａ中学校
―地域と一体となった教育活動と学校運営―

創造性にあふれ、また学校改善への積極性をもつ校長の高い力量とリーダーシップの発揮により、学校内外の組織を変革している。研究指定（起業家教育、福祉教育、命の学習）や特色ある「総合的な学習の時間」の運用、ボランティア・祭り等の地域行事への生徒・教職員の参加など、地域連携を積極的におこなうことで学校教育活動を活性化している。また、これらを可能にする学校評価システムや教育課程検討クリエーティブ・ミーティングなど、教職員の主体性を促す特色ある学校運営を展開している。

１．調査の方法
（１）調査時期

調査訪問日：11 月 1 日（月曜日）13:30～　校長へのインタビュー
11 月 5 日（金曜日）13:30～　校長へのインタビュー

校長インタビューをそれぞれ３時間ほどおこなった。インタビューでは、特に、校長のリーダーシップ、保護者・地域との連携、学校内部組織の活性化、学校文化（教師文化）の改善、校内研修、学校評価、外部組織との連携等について話を聞いた。Ａ中学校長は、社会教育主事の経験もあり、またＡ中学校赴任前は、小学校校長を務めた。Ａ中学校には、平成 14 年に赴任した。なお、インタビュー日時に先立って、後述する起業家教育の生徒による出店の見学をした（10 月中旬、銀行前）。

（２）収集資料

学校運営要項、学校要覧、研究集録、学校経営報告、その他、会議資料等。
資料は、Ａ中学校長が赴任した平成 14 年度から平成 16 年度までのものを中心とし、これを参照しながらインタビューを進めた。

２．学校の概要
（１）沿革

昭和 47 年に開校。当時、三学区（三つの中学校）を統合するかたちで学区を定め、学校が設置された。現在の状況でいえば、学校は市街地からやや離れ、周辺を農地に囲まれた地域に立地する。特に近年において、学区の生徒数の減少が見られる。地域の生徒数の減少という状況にあって、校長は、地域として児童・生徒を育てていく意味でも地域の力を活用するべきだと考えた。在籍生徒数の推移は以下の通りである。

在籍生徒数の推移								
西暦（年度）	1972	1980	1990	2000	2001	2002	2003	2004
在籍生徒数（人）	483	276	263	264	237	230	210	197

学級数・生徒数	学年	1	2	3	特別支援	総計

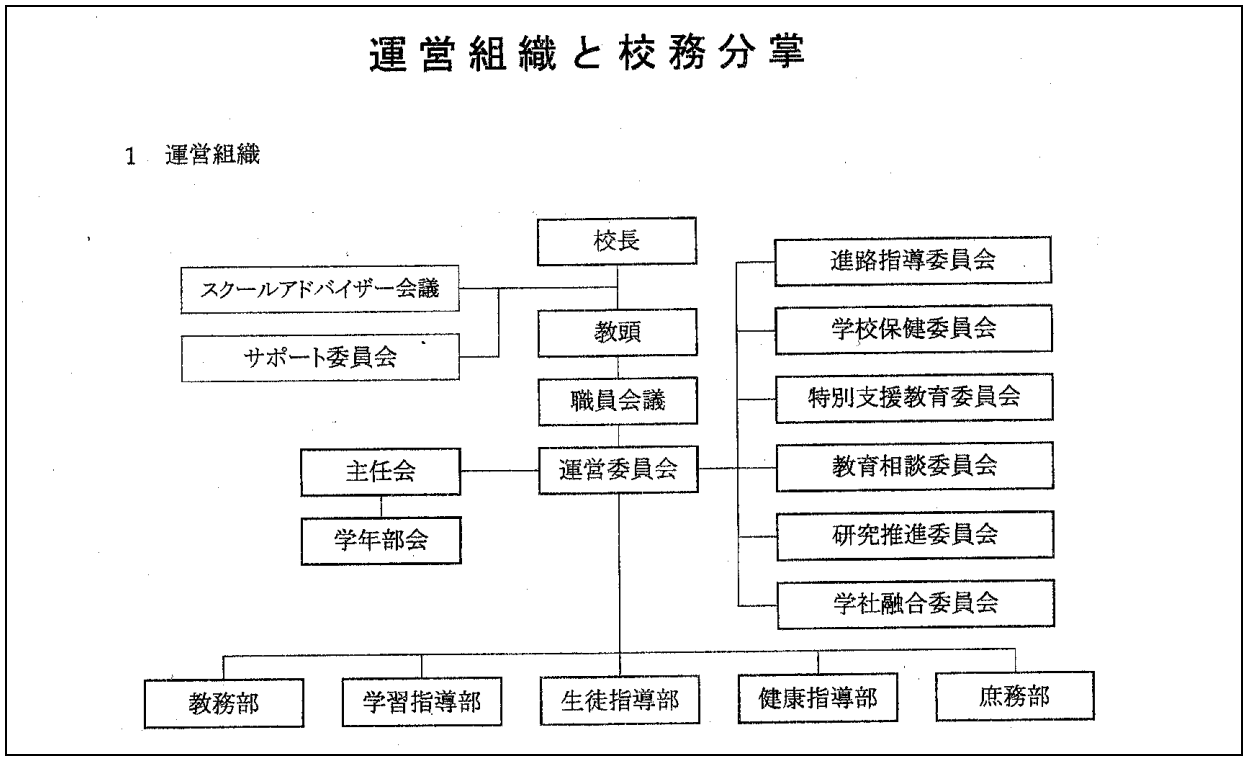
2004（平成 16）年度	学級数	2	2	2	1	7
	生徒数計	72	63	60	1	196

（２）教育目標

学校教育目標は、生徒の目標として「失敗から賢く学ぶ A 中生」（知）、「自ら輝き命を敬う A 中生」（徳）、「健康で自分に克つ A 中生」（体）、教師の目標として「自ら磨き地域に開く A 中教師」である。A 中学校は、現在の校長を中心として、学校改善を行うなかで、この学校教育目標を見直し、検討を重ねてきた。

（３）学校の内部組織

運営組織は、オーソドックスな組織体制の中に、A中の地域連携の機能を担う組織として、スクールアドバイザー会議、サポート委員会、学社融合委員会などの会議体が見受けられるのが特徴的である。



（平成 16 年度　Ａ中学校　学校運営要項より）

（４）保護者・地域との連携の関係

Ａ中学校の大きな特色として保護者・地域との関係が挙げられる。これについては特筆すべき調査結果としても後述するが、おおよそ以下のような活動があり、教師も積極的に参加している。

○特色ある活動としての連携
地区文化祭への参加（起業家教育販売活動）、幼稚園・養護施設との交流、地区の祭りなどの行事への参加（踊り、邦楽、詩吟）、菊づくり（地域の指導者に学ぶ）
○情報の発信

学校要覧等の情報の全戸配布
○保護者・地域連携を促進する学校運営
Ａ中サポート委員会、Ａ中運営委員会、Ａ中アドバイザー会議、学校評議員制度の活用

３．特記すべき調査結果
（１）校長の高い学校経営の資質・力量
１）ビジョン
第一に、校長が、明確なビジョンと教育観に支えられた学校経営の方針をしっかりともっていることが特筆できる。

◆いま、なぜ地域の学校か

これまで日本の学校教育は、地域社会の厳しい現実と結び付いて教育課程を組むというよりも指導要領にそって教科内容と教育課程に基づいて自己完結的に展開してきた。その理由として一つは教科教育がもつ積極面の一方で、教科教育の限界性の認識が弱かったことである。社会は複雑多岐であるのに、学習指導要領と教科書内容が絶対的な存在で、地域素材の教材化を図る場合でさえも、地域とのかかわりの意義を、本来教科内容は現実社会の一側面を便宜上分類したものなのに、現行の各教科ごとの教育課程内容におしとどめたりすることも見られた。

二つは学校教育の限界性の認識が弱かったことである。これは受験勉強をはじめ学校教育の即効性や効果を重視するあまり、学校以外の自由な環境で学ぶ創造力や主体性などの長期的な発達効果を捕らえる視点が弱かったためであろう。学校教育の目的が、教科の学力のみをとらえがちであった。

そのため、子どもの力量の課題として、教科内容を現実社会に結び付けたり、各教科内容どうしを結び付けて応用的に課題を解決する力が弱いという指摘もあった。

学校が地域の人材を活用しても、しばしば特定の教科内容の補足等に考え、地域を理解するには役立つが、「地域に学校は貢献できるか」「地域おこしも学校から」というところまではいかない場合が多かった。

科学や教育の本来の目的は「学びの成果を社会へ還元」することであるから、児童生徒に「学びの成果を現実の社会で活用できる方法」を考えさせることは重要な教育課題ではないだろうか。現実の社会に学びを生かせるようにするには、まず現実の社会とりわけ「身近な地域社会から学ぶこと」が重要である。

ただし、地域での学びは即効でもなく点数ではかることのできないものである事を認識しながら長期展望に立って健やかな子どもを育むことが大切である。

（校長自身による資料より、抜粋）

２）変革への積極性
Ａ中学校長は、しきたりや慣習を打破し、良いものは残しながらも変革していこうとする積極性をもち、具体的には、行事関係を積極的に改変する力が大きい。特にイベントや行事等に関して、変革するリーダーシップに長けている。そういった姿勢は、社会教育主事

時代の経験も大きいと校長自身、指摘する。また、前任校（小学校校長）で成し遂げた実績（PTA 総会の出席率向上、卒業式等の式典の変革）に裏打ちされている側面もある。Ａ中学校には、平成 14 年度から赴任しているが、その赴任した年度の７月開催の創立記念式において、すでに校長の変革へのビジョンが具現化されている。

創立記念式の変革
・従来の格式ばった式典から生徒主体の地域の方々を招待する式典へ。
・司会進行は、生徒会執行部がマイクにより進行。
・催しの踊りの練習には、地域の指導者が来校
・教職員も合唱を独自に練習し、生徒の合唱練習に合流
・来賓への案内状は、生徒の文章で趣向
（平成 14 年度研究収録より）

また、校長のアイデアやリーダーシップが発揮された取り組みとして諸点を上げると以下のようなものがある。合唱や祭りへの参加は、生徒の表現力を高める意味でも非常に重要であるととらえられている。

・ＰＴＡ総会の保護者出席 100％目指す
・学校要覧等の情報の全戸配布
・ボランティア・祭り等の地域行事への生徒・教職員の積極的参加
・学校をあげた合唱祭の開催（学年、学級別によるコンクール形式とともに、地域の団体やプロの特別出演なども交えて開催。場所も校外の公共施設ホールを利用）
・小中連携活動（小中間校内授業研究会、児童・生徒間体験交流）

３）点検・評価

校長は平成 14 年４月にＡ中学校に赴任以来、教職員とともに毎年度、教育目標をしっかりと見直してきた。（資料：平成 15 年度「Ａ中の教育」構想図及び平成 16 年度学校教育目標の具現化構想）これによって、年度末に果たしてどれだけ教育目標が達成できたのか、そして実際にどんな活動を行い、何を結果として残すことができたのかを明確にすることができる、というようにつながっていくと指摘する。

また、校長だけでなく、教頭もリーダーシップを発揮して学校評価システムを導入してきた。Ａ中学校は、もちろん評価票による評価も行っているが、本報告で見るように、特に外部との連携や校内における会議や話し合いの活性化など、コミュニケーションを高める活動を軸とした自己点検・評価の体制をとっていることが特筆できる。（山形県の小中学校では、各学校が、地域との関わりを大切にし、自らの課題に応じた学校評価システムの構築について平成 14 年から３カ年研究を進めてきた。本報告者も関わった。）

４）アイデアと細かな気遣い

Ａ中学校では、アイデアを企画したり、発想する力が重要であるが、校長自身がその先頭に立っているといえる。しかし、それは、単に発想や企画だけをしているというものではない。教職員への細かな気遣いや配慮があるからこそである。例えば、職員のレクレーションも、単に忘年会をやるようなものではなく、各職員がグループに分かれてテーマと場

所を選んで企画する「職員研修忘年旅行」である。また学校事務職員にも積極的に教育活動に参加してもらうことで事務職員の立場から教育活動をよく理解してもらい、そのことが事務処理や会計にも役立つ、というねらいなどである。エピソードは数多い。

平成１５年度「　A 中の教育」構想図（案）

A 中学校

平成１４～１６年度　福祉教育指定校「さいわい」
平成１５～１７年度　教育委員会委嘱研究指定校「いのち」
平成１５年度　起業家教育推進校「ちいき」

生徒の実態・願い
- ○素直で心優しい
- ○体を動かし働くのが好き
- ○基礎学力の積み上げが必要
- ○人前での発表に自信がない
- ○楽しく勉強し充実したい
- ○友達をたくさん持ちたい

学校教育目標
- 知育　失敗から賢く学ぶA中生
- 徳育　自ら輝き命を敬うA中生
- 体育　健康で自分に克つA中生
- 地域　地域で豊かに生きるA中生
- 教師　自ら磨き地域に開くA中教師

地域・保護者の願い
- ○夢をもち、実現への努力
- ○あきらめないねばり強さ
- ○地域の中でのあいさつ
- ○素直で思いやりのある心
- ○勉強する楽しさ
- ○性に対する正しい認識

「いのち」の学習

ラーニング・スキル
生涯学習の礎を示し、学習哲学・授業哲学と連動する。

PDCA－Sマネジメントサイクルによる学校教育活性化システム導入
A 中アドバイザー会議
A 中運営委員会
A 中サポート委員会

ヒューマン・スキル
人間関係を築く礎を示し、初発指導、総合学習で徹底する。

学級活動
性教育・進路指導を通して「いのち」の学習に触れる。

生徒会活動
集団生活の向上を通して「いのち」の学習につなげる。

学校行事
生徒の文化・体育活動を通して「いのち」の学習につなげる。

必修教科
各教科の「いのち」に関わる基礎・基本の内容項目を重点事項とし、教材として「いのち」関連資料を活用する。

選択教科
発展学習として、「いのち」関連資料の活用、体験学習として「いのち」の体感学習を行う。

道　徳
４項目より「いのち」関連の小項目を抽出し、生徒の実態に応じて重点事項とし、指導する。

総合的な学習の時間
- 全校：社会人マナー学習／菊づくりの学習／いのちの講話学習
- １学年：興味・体験・感動／食農起業家コース
- ２学年：食農環境コース／食農福祉コース
- ３学年：食農国際交流コース

健全育成
ようこそ先輩メッセージ
１年宿泊研修プログラム
青少年健全育成講話
生徒会リーダー研修会

学力充実
生徒と教師の朝の一斉読書
スピーチ、散文、詩による表現活動
基礎学力向上プログラム
学力向上プログラム

地域融合
体育振興・教育後援会
公民館主催事業参加
地区体育祭・文化祭出演
ボランティアサークル

平成 16 年度

学校教育目標の具現化構想

A 中学校

職員集団の推進力により創り上げる

学校教育目標（めざすあり方）
地域で豊かに生きる A 中教育

失敗から賢く学ぶ A 中生　（知）
自ら輝き命を敬う A 中生　（徳）
健康で自分に克つ A 中生　（体）
自ら磨き地域に開く A 中教師

A 中生の自信と誇り

個の確立: 自らを拓く主体的学習者の育成

○ 内発的な学習意欲と学ぶ力を基礎とした主体的な学習
○ 目標・行動の自己決定と結果に対する自己責任感
○ 生き方を見つめ、自己実現を図ろうとする意志と実行力

集団の中で自己を生かす主体性、集団の中で生きる個性
— 個性: 努力して磨いた価値のある個性 —

集団の成長: 秩序と規律、創造と達成を分かち合う集団

○ 集団を高める目的・ねらいの明確な日常活動
○ 集団の課題解決を図り、日常の向上に繋がる行事
○ 自己を生かす力の伸長と他者理解・他者の尊重の態度

個を磨く集団、個の持ち味を生かす集団
— 望ましい集団: 個の尊重、個の成長を保証する集団 —

まなび

◎ 学ぶハート
○ 仲間との違いからの学び
○ 集中・反復・継続の重視
○ 「なぜ」を解く挑戦
○ 失敗の意味の学び
○ 自分の考えの伝達

◎ つなぐハート
○ 仲間のよさの認識
○ 誤りを認める素直さ
○ 笑顔であいさつ
○ よい聞き手であること
○ 仲間を尊重した振舞

ふれあい

教科に内在するおもしろさを知り、学ぶ力をもち、自ら学ぼうとする意志	自ら学び考える力を伸ばす適切な課題を設定し、学び続けようとする態度	他者に共感し、自己を深く見つめ、自ら向上しようとする態度・実践力	集団における役割をもち、自らを生かそうとする、創意ある活動への意欲
□ 学ぶ意欲と学習の継続性 □ 学ぶ力・学習技能の習得 □ 聴く力、発表力・表現力	□ 課題の吟味と課題解決 □ 学び方・表し方の学習 □ 進路を拓く主体性	□ 自己を見つめる真摯な目 □ 他者への共感的理解 □ 価値を認識する力	□ 自己の特長の認識と伸長 □ 目的を捉えた活動 □ 実践への意欲・態度

教科	総合的な学習の時間	道徳	特別活動
□ 一人一人に 50 分の学びを保証する授業の構想 □ 学習指導の評価と改善の試みや研修の日常化	□ 個の課題解決と学習能力の向上を図る活動 □ 適切な負荷のある課題設定への支援・指導	□ 道徳の時間の指導過程への習熟と実践化の推進 □ 道徳の時間を支える学級づくりと心の耕しの継続	□ 集団の課題の解決と向上の意図が明確な活動 □ 自己を生かそうとする意欲をもった集団の形成
他者とともに考えを練り上げたり、互いの意見や創意に学んだりすることにより、個の学びを深める。	課題解決や相互の発表から学び取り、個が自ら学び考える力、自己の生き方を考える力を育てる。	価値をめぐる多様な考えを交換することを通して、個により高い価値に気づかせ、実践力の基礎を培う。	集団活動を通して、調和のとれた発達と個性の伸長、自主的・実践的態度、自己を生かす能力を養う。

教育委員会「いのちの学習」委嘱研究指定校(H15-H17)

研究主題（2 年次）

いのち

伝わる わたし
広がる いのち

起業家教育推進校(H15-)
福祉教育指定校(H14-H16)
青少年赤十字推進校(H15-H17)

学校経営の重点

（指導者集団が共通理解に基づいて組織的に推進し、常に評価・改善を図ること）

□ 個に応じた指導、発表力の育成、学力の向上
□ 目標設定と努力、「練習は不可能を可能にする」
□ 思いやりや命を大切にする心を育てる道徳教育
□ ボランティア活動・体験的活動による感性と豊かな心の育成
□ 危険の予測を重視した積極的な安全教育
□ 主体的に学ぶ力と表現力の育成
□ 自治的活動、部活動、主体性を育む学校行事の推進
□ 自己実現を図る進路指導の推進、目的意識と学習計画
□ 教育相談活動と特別支援教育の推進
◎ PDCA-S マネジメントサイクルによる学校評価

学校経営の基本方針

（指導者集団が共有する指導姿勢と具体的実践項目）「内外に開く・拓く A 中教育」

◇ 生徒の学力を拓く授業　基礎・基本、性教育、「いのち」の自覚、少人数指導、選択学習、基礎学力の習熟
◇ 生徒の心を開く教育活動　一斉読書、表現活動、先輩リレーメッセージ、菊づくり、A 中祭、宿泊・福祉・職場体験学習
◇ 保護者との交流・啓蒙　授業参観、進路学習会、学年行事、教育講演会、家庭訪問・三者面談、各種便り、母親委員会
◇ 地域との連携・融合　要覧・　・経営報告、サポート委員会、起業家教育、学校行事招待、地域行事参加、奉仕活動
◎ スクールアドバイザー会議による評価、地域連携のサポート委員会、PTA・教育後援会・体育振興会、小中連携

（２）地域連携の組織

Ａ中学校は、学校教育活動や行事を「開かれた学校」として展開しているだけでなく、外部からのアドバイスに積極的に耳を傾け、また評価を受けることで学校経営に対する外部からのチェック機能もしっかりと保持している。大きくは以下の３つである。スクールアドバイザー会議（学校経営の専門的な部分を中心に）、学校評議員（それぞれの地域の代表からの意見を中心に）、サポート委員会（様々な行事を支えてくれる人々、そしてなるべく多くの地域の声を学校教育活動に反映させることを中心に）である。（以下、会議メンバーについては資料より報告者が構成）

スクールアドバイザー会議

・眼科医院長（他の学区で校医を勤め、また絵本の読み聞かせなどの活動もしている）
・元中学校校長
・元小学校校長
・地域代表
・Ａ中学校　校長、教頭

学校評議員

・地区振興会長
・地区主任児童委員
・教育後援会副会長
・元体育振興会長
・元母親委員会代表
・地区老人クラブ代表

「特色ある学校づくり」のためのＡ中サポート委員会組織

・振興会長　地域住民３名
・教育後援会　地域住民３名
・体育振興会　４名
・公民館長　３名
・社会福祉協議会代表
・民生委員代表
・老人クラブ代表
・主任児童委員代表
・子供育成会代表
・女性代表
・ＰＴＡ　３名（会長、副会長）
・母親委員会代表
・Ａ中学校　校長、事務局３名（教頭、教務等）

（３）特色ある「総合的な学習の時間」の運用

地域の指導者から教えを受けての「菊づくりを通じた地域との共同」や「起業家教育研究指定」さらには「福祉教育研究指定」など、地域連携を軸とした特色のある教育活動が「総合的な学習の時間」の運用により展開されている。

例えば、起業家教育研究は、県の産業経済部予算による研究指定事業である。地域の銀行からの協力を得て、職員を派遣してもらい、講演や指導を受ける。

起業家教育の流れ

・総合学習の一環として一年生から三年生の希望者計 100 人強が参加
・会社づくり、商品選び、資金、融資希望額など計画を立てる。（一学期終わりごろから）
・生徒は、例えば５人とか 10 人くらいで会社（社長と社員）をつくる。
・「こんにゃく料理」「お菓子」など、商品を売る。
・事業計画書を作成する。銀行から指導を受けながら、会社で検討する。
・自分の会社をプレゼンテーション（商品説明・販売や宣伝方法・利益見込）で売り込む。
・銀行に事業の成否を見てもらい、融資してもらえる金額を査定してもらう。（融資審査実習、10 月）
・資本金や融資金として貸与を受ける。
・地区文化祭や銀行前での「起業家祭り」で出店し、利益を得る。（11 月）
・社員へのボーナスなど、配当を計算する。

（資料から抜粋して構成）

起業家教育や福祉教育の研究指定は、教委関係のものではないことが特筆できる。校長が自ら積極的に動き、指定を受けたものである。例えば、福祉関係の研究指定を受ける場合、こういった領域について知っていたり、情報を得ることができたりしなくてはならないが、社会教育主事の経験もここでは生きている。

これらの研究指定を得ることは、地域連携や学社融合の視点をもち、このことが生徒にも教職員にもプラスとなるという校長の明確なビジョンと教育観を反映している。校長のビジョンのところでも指摘したところである。

また、学校の限られた予算では、活動も限られる。こういった研究を積極的に受けることで予算も得ることができる。そして、資料（平成 15 年度「Ａ中の教育」構想図、平成 16 年度学校教育目標の具現化構想、Ａ中の「総合的な学習の時間」の運営について）でも明らかなように、３つの研究がうまく関連づけられたデザインをもっていることも教育課程経営の観点から見て、評価が高いと思われる。

Ａ中の「総合的な学習の時間」の運営について（案）　　030421

1．ねらい
（1）地域に対する自分の課題を発見し、体験・調査・交流活動を通して追究し、学習成果を発信することで、地域人としての自覚を育む。
（2）起業家教育を通して、会社経営を体験し、教科学習の活用や社会性を学ぶ。

2．実施課題
キーワード「さいわい・いのち・ちいき」
（1）地域の指導者と育てる「菊づくり」学習（全校一斉実施）
（2）食農に関する起業・福祉・環境・生命の課題別学習（全校課題別実施）
（3）宿泊研修・修学旅行、生徒活動の企画・評価学習

3．実施時期
（1）菊づくり　　6月～12月（18時間）
（2）食農課題別学習　　6月～　3月（47時間）
（3）学校・学年行事の企画と評価　　4月～　9月（20時間）

4．実施計画（食農課題別学習）
（1）起業・福祉・環境・生命についての課題の洗い出しと担当教職員の割り振り
（2）課題毎の年間計画の概要作成
（3）外部講師による講話・実技指導によるオリエンテーション
※接遇マナー、福祉士・保育士講話、起業家会社社長講話、婦人科医師講話等
（4）生徒の課題別学習ガイダンスとウェップによる課題探し（グループ化）
（5）課題別ごとの授業開始
①会社づくり・会社目的・予算・商品開発・制作・販売計画・販売・決算
②福祉目的・交流計画・交流企画（練習・制作）・交流学習・外部でレポート発表
③環境目的・調査計画・体験／見聞／調査・外部でレポート発表
④生命目的・調査計画・体験／見聞／調査・外部でレポート発表
（6）校内発表交流会
（7）次年度への成果と課題

5．指導体制等配慮事項
（1）全職員を課題別のグループに編成し、当該学年の生徒を越えてＴＴで指導する。
（2）水５校時・金６校時のコマを必要に応じて２時間連続とする。
（3）校外での活動が計画されることから、校外活動計画を作成し、安全に活動する。
（4）地域の講師はボランティアを原則とし、派遣に際しては教頭に相談する。
（5）必要経費は、生徒の個人負担を原則とし、必要に応じて可能であれば学年活動費から捻出する。

（４）教育課程検討クリエーティブ・ミーティング

１）オフサイトミーティングのはたらき

これまで述べてきたように、Ａ中学校では、校長の高い学校経営の資質力量を基盤としたリーダーシップの発揮から、保護者・地域との連携を基軸として「特色ある「総合的な学習の時間」の運用などの教育活動を展開してきている。そして、そこでは、これらの活動

を計画し、実施し、また改善や工夫を重ね、次年度に活かしていく、すなわちＡ中学校でいえば、「ＰＤＣＡ　on　Ｓhow マネジメントサイクルによる学校教育活性化システム」が機能している。
だが、これらの活動は、教職員の自発性や積極性がなくては機能しない。そのためには、教職員が自由闊達に意見を述べ合い、様々な活動に対する自分のスタンスやコミットメントをはっきりと意識し、自ら関わっていくことができることが重要である。すなわち教職員の立場から、教育課程経営及び学校経営の側面に関わることができ、そして広く学校の教育活動や行事活動について話し合い､自らの意見を出すことができる機会が必要になる。Ａ中学校では、そのような教職員によるディスカッションやブレインストーミングをねらいとした「教育課程検討クリエーティブ・ミーティング」と題するオフサイト・ミーティングをおこなっている。オフサイト・ミーティングでは、自由に意見を出し合い、とにかくアイデアや発想を重視するルールを確認する｡意見やアイデアのちょっとしたことまで、どんどん記録する。やり方も、ＫＪ法に近い方法で、カードや付箋を用いることもある。また､場所は､学校以外の場所を使って､すなわちオフサイトにすることで気分や気持ち、雰囲気を変えることが重要である。Ａ中学校では、平成 16 年度は、７月、12 月（ともに終業式後）に１回ずつ、年度としては、２回行っている。

２）通常の学校運営との関連
日常の学校運営における会議、例えば職員会議では、すべての教員が十分な発言ができる時間があるわけではないし、意見交換や議論の時間も限られる。したがって、そのように時間がないために、そこではちょっとした思いつきやアイデアのようなものは排除されてしまうし、各人が控える傾向にある。また、教職員間の力関係が発言を制御するような場合もあろう。
これに対して、Ａ中学校で行っている「教育課程検討クリエーティブ・ミーティング」は、学期末におこなっているのでこれを振り返るなかで意見やアイデアを出すことができる。しかし、いわゆる通常の学期末「職員反省会」とは異なるかたちである。とにかく、教育課程検討クリエーティブ・ミーティングでは意見をどんどん出してしまう。脱線や、奇抜な意見も含まれる。ここでいろんな意見やアイデアを出しておき、ひるがえって日常の学校運営の場を、効率的な議論を展開する場とする。そのようなルールを、あらかじめ確認しておく。（資料参照）会議場所についても、学校外の施設（公民館、ホテルの会議室等）を使用することで雰囲気を変える、すなわちオフサイト・ミーティングとしておこなっている。
このように､一人ひとりの教職員が､オフサイトにおいて､いろいろな意見を出した上で、日常の学校運営につなげていく。このような取り組みによって、通常の学校運営における会議において､教職員が､より主体的に会議に参加できるようにするというねらいである。

平成１５年度教育課程検討クリエーティブ・ミーティング

平成14年12月20日（金）13：30~15：30
司 会；　　記 録；

1. 開会のことば
2. 校長先生の話
3. 連絡・報告（1月の行事予定、各指導部の初発指導など）
4. 協 議
   （1）2学期の学校評価についての報告と教育課程編成上の配慮事項（15分）
   （2）平成15年度教育課程編成方針（5分）
   （3）教育課程編成への各校務部からの提案と意見交換
      ①学習指導部（10分）
      ②生徒指導部（10分）
      ③健康指導部（10分）
      ④教 務 部（10分）

      移動・休憩

   （4）教育課程編成ブレーンストーミング（40分~分科会ごと解散）

グループ編成		☆司会係	★記録係
A　教育目標・小中連携	☆		★
B　日課・週課	☆		★
C　諸会議・研修／厚生	☆		★
D　卒業・入学・創立式	☆		★

①司会係がブレーンストーミングのルールを確認する。
②各グループごと寄せられた意見資料を手がかりにアイディアを出し合う。
③記録係は出されたアイディアに番号を振りもれなく記録する。
④記録係は、教頭に記録を提出し、次回の教育課程検討会に提案する。

５つのルールを守ってとにかくアイディアを出し合おう。

ブレーン・ストーミングのルール

1. 既成概念にとらわれない（常識を捨てる。恥ずかしがらない）
2. 質より量を重視する。（何でもいいから、たくさん出す）
3. 「３セズ」でいく（批判セズ、議論セズ、くどくど質問セズ）
4. 人の尻馬に乗る（人のアイディアは積極的に盗む）
5. アイディアは箇条書きにして記録する。（1項目ーつのﾒｯｾｰｼﾞ、ﾅﾝﾊﾞﾘﾝｸﾞする。）

Ａ中学校

Ａ中ブレーンストーミング
より創造的な教職員集団を目指して

※５つのルールを守ってとにかくたくさんのアイデアを出し合おう。

ルール

1．既成概念にとらわれない。（常識を捨てる。恥ずかしがらない。）
2．質より量を重視する。（何でもいいからたくさん出す）
3．「３セズ」（批判せず、議論せず、くどくど質問せず）
4．人の尻馬に乗る。（人のアイデアは積極的に盗む）
5．アイデアは箇条書きでカードに記録する。（１項目一つのメッセージ・ナンバーリング

進め方　①進行役がブレーンストーミングのルールを確認する。
②最初の５分間で２つの課題について各自アイデアをカードに書き出す。
③炉辺談話のノリで２５分間（１つの課題に10分程度）アイデアを発表しあい、思いつきを更にカードに書く。
④残りの10分でカードをグルーピングし、発表するものを整理する。
⑤発表係は代表的なものを全体会で報告し、　　に提出する。
⑥校務部は、アイデアを積極的に取り入れ、実施要項に生かして提案していく。

※グループ編成　（☆発表者，★進行役）

Ａ：☆　、　、　、★　　室
Ｂ：☆　、　、　、★　　学級
Ｃ：☆　、　、　、★　　室
Ｄ：☆　、　、★　、　　室

<ブレーンストーミング課題一覧>

1．学力向上のアイデア（学校での生活を中心として）

2．プレ公開研究会で感動される環境整備の工夫

3．いのちの学習ＣＤ－Ｒの効果的な使い方

4．価値がわかり、素直に受け入れられる生徒を育てる工夫（服装を中心として）

Ａグループ担当課題　１・２　　Ｂグループ担当課題　１・３
Ｃグループ担当課題　１・４　　Ｄグループ担当課題　１・４

（加藤崇英）